

第1学年*組 平成*年*月*日 (*)*校時		国語科学習指導案 **教室 指導者 石塚 武志		
育成する国語の能力	話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てる			
単元名	表現編「スピーチをしよう」「レポートを書こう」			
単元目標	○表現の仕方についての評価を通して得たことを、相手に応じた用語の選択、場面や状況に応じた話し方に生かそうとする。 ○表現の仕方についての評価を通して得たことを、相手に応じた用語の選択、場面や状況に応じた話し方に生かすことができる。 ○表現の特色を理解できる。 (知識・理解) [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の(1)のイ(ア)			
単元の評価規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	知識・理解	○表現の特色を理解している。
取り上げる言語活動	報告や発表をしたり、それらを聞いたりする言語活動			
題材(教材)	『新編 国語総合 言葉の世界に』(教育出版) 表現編 「スピーチをしよう」「レポートを書こう」			
単元(教材)について	(1) 生徒観: ライン、ツイッター、フェイスブック等を活用して仲間内のコミュニケーションを図ることはできるが、面と向かっての会話で自分の考えを適切に伝えたり、相手の話しを適格に聞き取って理解することに課題がある。 (2) 教材観: 教科書の本文に、大勢の前でスピーチをするのは苦手な人が多い、と認めた上で「ショウ・アンド・テル」の手法を示している。レポートの項目では情報収集の重要性とメモの活用について書かれてあり、映像レポートで表現して内容を評価する学習には適していると考えられる。 (3) 指導観: チーム(グループ)で映像レポートを作成して発表させ、自己評価、相互評価を行って工夫改善点を理解し、次に生かそうとする態度を身に付けさせる。			
指導計画 (学習計画)	主な学習活動		主な評価	
1時	挨拶や歌、スポーツの応援など人前で声を発する機会を挙げる。全員での詩の朗読や二人一組での早口言葉の練習、映画の名ゼリフ等を音読し、声を出すことの楽しさを味わう。		積極的に声を出している。 (関・意・態) 【評価方法】 机間指導、発声の確認 【指導の手立て】 恥ずかしくて発声できない場合は、相手に何らかの質問をしてもらい、それに答える形で声を出すように指示する。	
2時	テレビ番組のグルメレポートを見てショウ・アンド・テルの手法を理解し、スピーチの幅の広さや面白さを理解する。		表現の仕方について工夫すべき点を理解している。 (話・聞) 【評価方法】 ノートの点検 【指導の手立て】 グルメレポートを見て、どの場面で美味しいだと感じたか、そこで出演者がどんな表情やセリフで伝えているかに注目するよう指示する。	
3時	相手に何かを伝える場合の、話の内容や構成について理解する。レポート作成の手順を学習し表現の特色を理解する。		レポート作成の手順を学習し、表現の特色を理解している。 (知・理) 【評価方法】 ノートの点検 【指導の手立て】 教科書 p 186 の学習のポイント①を読みながらノートに写すよう指示する。	
4時	チーム分けを行い、各チーム内で役割分担について話し合う。その際、自分の考え方や相手の意見を円滑にまとめて分担できるようにする。		役割分担を話し合いながらスムーズに行つたか。 (話・聞) 【評価方法】 机間指導、自己評価シートへの記述の点検 【指導の手立て】 各チームで司会者と記録者を決め、リーダーを中心に話し合いを進	

		めるよう指示する。
5時	3チームの発表を行い、映像レポートについて自己評価、相互評価を行う。	自チームや他チームの映像レポートを適切に評価し、意見を発表している。(話・聞) 【評価の方法】発言の確認、記述の確認 【指導の手立て】他者の発表に対して、自分なら真似したいか、直したい部分があるか、という視点で映像を見るよう指示する。
6時	3チームの発表を行い、映像レポートについて自己評価、相互評価を行う。	第5時に同じ
7時	2チームの発表を行い、映像レポートについて自己評価、相互評価を行う。他チームの発表について良い点、改善点をまとめる。	第6時に同じ
8時	伝えることの楽しさや難しさを総括する。場面や状況に応じて工夫して話すことを客観的に理解するために、相互評価を元に振り返る。	表現の仕方についての評価を通して得たことを、相手に応じた用語の選択、場面や状況に応じた話し方に生かそうとしている。 (関・意・態) 【評価方法】発言の分析、記述の分析 【指導の手立て】改善点ばかりに目を向げず、自分の良い点を伸ばすという視点で相互評価の結果を読み取るよう指示する。

本 時 案 (第8時)		
本時の目標	学習活動	指導上の配慮事項など
表現の仕方についての評価を通して得たことを、相手に応じた用語の選択、場面や状況に応じた話し方に生かそうとしている。 (関・意・態)		
相互評価を生かして自分の表現を工夫改善しようとしている		
1 前時までの振り返りと本時の目標の確認。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を板書する。 ・評価シートの内容を確認させる。 	
2 第5時、6時、7時でまとめた他チームからの評価内容を、自分のチームの工夫改善点として列举する。	<ul style="list-style-type: none"> ・複数枚ある評価シートをチーム内で一つにまとめるよう指示する。映像に映っている部分だけでなく、インタビューの内容や聞き手の表情、撮影場所等も適、不適の判断をさせる。 	○表現の仕方についての評価を通して得たことを、相手に応じた用語の選択、場面や状況に応じた話し方に生かそうとしている。 (関・意・態) <他チームからの評価を一枚にまとめた評価シートの記述の分析> <模造紙に記載された工夫改善点の内容の確認>
3 チームの工夫改善点を模造紙に大きく書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・会話の内容、出演者の表情、発表時の資料などについて項目ごとに工夫改善点を書かせる。 	<チームの意見をまとめて発表した代表者の発言内容の分析>
4 チームの代表者が、相互評価によって得られた内容を精査し、同じ取り組みをするならどう工夫改善するかを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板に模造紙を貼り付けて、ショウ・アンド・テルの形式で発表させる。 	
5 単元のまとめとして、多様な表現方法を通して、人前に出て話すことのおもしろさを理解するとともに、意見交換する相互評価によって、自分の表現がより良いものになることを理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・最後にまとめた評価シート、取材メモ、係分担の一覧等を提出させる。 ・2年次ではチームではなく個人でスピーチに挑戦するよう指示する。 	